

東日本大震災・活動報告(1)

「声なき者の友」の輪

Friends with the Voiceless International (FVI)

2011年（平成23年）3月11日14時46分に、三陸沖の東南東約130km付近の深さ約24km付近で、日本国内観測史上最大と言われるマグニチュード9の海溝型地震が発生。東北地方を中心として一都9県が「災害救助法」の適用を受けた。またこの地震によって大津波が発生し、三陸沿岸をはじめとして全国各地に大きな被害をもたらした。

F V I の対応

スタッフ～4日前に南アフリカから神田が帰国。昨晚インドから柳沢が帰国。陣内はエチオピアで連絡が取れず。帰国予定は3月17日。

対応～地震発生直後から、何回も宮城・福島県の諸教会と連絡を試みるが電話は不通。海外の姉妹団体 FH、DNA から連絡が入り、F V I としても支援活動にあたることを確認。FH の Dave Evans 氏から Emergency Relief Fund から \$ 2500 を送るとの連絡有。

JIFH の清家氏と連絡～JIFH は仙台に向かうとのことであったので、FVI は福島県で活動することが妥当と判断し、早速、郡山に向かうことにしたが、ガソリン不足もあって阻まれた。

3月12日に福島第一原発一号機が水素爆発を起こす。14日には三号機が水素爆発。11人がけが、1名が被爆、20キロ圏内からの退避。

NHK（原子力安全・保安院、枝野官房長官）の安全報道と BBC、CNN など爆発の瞬間を映像として流している海外報道との食い違いが目立つ。

3月13日（日）礼拝後、東久留米で開かれた CRASH の会合に参加。

F V I は調査のために郡山に行く予定を話した。

また、阪神大震災後に書いたトラクト「人生の基盤が揺るがされる時」のことを話した。

結果、CRASH から先遣隊として派遣されることになった。Kent Penner 氏が同行を申し出てくださる。寝袋、放射能に備えてレインコートなど緊急に必要なものを購入。高速道が閉鎖され、宇都宮までは電車が動いているとのこと。宇都宮から車を借りて郡山に入ることにしたが全てのバイク・レンタカーは貸し出し中。15日から東北新幹線が那須塩原まで運転を開始することが判明。八方手を尽くし、那須の奥山師がご自分の車を提供してくださることになり、出

発。しかし、ガソリンが手に入らないとの連絡が入り、途中で引き返す。
また、CRASH で出会ったAG・宣教師サルスベリ師がトラクト「人生の基盤が揺るがされる時」に興味を示してくださった。話し合いの結果、トラクトを書き直し、全教会が自由に使えるモノとして発行することを決定した。
福島第一原発から至近距離にある福島第一聖書バプテスト教会の佐藤彰師、教会員の被災情報が入り始めた。
英文での情報発信を始める。

戦略会議（3月22日から24日）～柳沢、陣内、神田

FVIとしては、主が何をなさるかを見極め、それに従うことを原則としているので、祈りのために時間を割いた。

信仰者ではないが、ローマ帝国で迫害されていたキリスト教がなぜ劇的に伸びたのかを社会学者 Rodney Starks がその著 The Rise of Christianity の中で分析している。ローマにペストが大流行した際に、ローマの医者や家族がペストに罹った患者たちを見捨てる中で、復活の信仰を持っていたクリスチャンたちが自分の命をかけて助けたことが初代教会が爆発的に伸びた大きな理由であることを提示していることに動機づけられた。

FVI がどこで奉仕をさせていただくかを祈る中で、地震・津波・原発爆発と三つを被災し、医者を含め多くの人々が放射能汚染を恐れて避難している福島県こそがターゲットとしてはふさわしいとの結論を出し、役員、正会員の了承を求めた。

その後、FH、DNAに英語で Proposal を作成し送付。

3月25日（金）

仙台における JIFH 支援活動を視察して来たFHの Peter Howard,沼田姉と会談。FVI も支援したいとのことでプロポーザルについて話し合った。

急遽、ガイガーカウンターを入手することにした。その後、いわき市（原発50キロ圏）に向けて出発（常磐道が開通のためスムーズ）。

放射能汚染の心配のために家族と共に須賀川キャンプ場に避難しておられた金成孝悟師が内郷に帰って来られ、明日から三週間ぶりの日曜礼拝を再開なさるとのことであったため、同盟・内郷キリスト福音教会の金成孝悟師ご夫妻を訪問。同盟教団の諸教会から多くの支援物資が届いていた。また、金成師の奉仕教会であった東京フリーメソジスト桜が丘教会から来週には物資が届く予定。「モノはあっても人の心は捉えられない」との金成師の言葉が印象的であった。

いわき市内の教会情報をいただく。市内には30以上の教会があるが殆どが避

難し、残った牧師は 4 名（グローバル・ミッション・チャペルの森章師、カトリックの神父、小名浜聖テモテ聖公会、同盟勿来キリスト福音教会の住吉英治師）のみであった。現在は、何名かの牧師が戻って来始めているとのことであった。

被災したキリスト兄弟団四倉教会の青山義恵師は湯本高校に避難されているとのこと。

3月27日（日）

これまで二週間日曜礼拝を休んでいたが、再開された礼拝に出席。金成牧師は羊を見捨てるようなかたちで二週間日曜礼拝ができなかったことに痛みを持っておられた。神田は「砂漠は森になる」と励ましのメッセージをさせていただいた。陣内兄は、ガイガーカウンターを使って放射線の話をしていただいた。会堂にかなり大きなひびが入っており、その修復を含め、お見舞い金として 5 万円の支援金をお預けした。

1) 約 30 名の信徒が東京聖書キリスト教会を頼って避難したため、女性一人で教会の砦を守っておられると聞いたリバイバル・クライスト・チャーチを訪問。大越重信師ご夫妻が帰ってきておられた。を放射線にかなりの恐怖心を持っておられたが、放射能値測定の結果をお知らせすると安心しておられた。会堂内はかなり低い数値。震災トラクト「人生の基盤が揺るがされる時」の話をしていただいた。

その後、小名浜地区へ。津波の現場を視察。

2) 避難所（江名小学校）に畔田里美さんのお父さん、お母さんを甘いお菓子を おみやげに訪問。数日前までは不足していた物資はかなり届くようになったという印象をもった。

ガソリンが入手困難。スタンドの従業員やガソリンを運ぶ運転手が放射能を恐れて避難しているため。

原発から半径 10 km 圏内大熊町で 27 日に発見された遺体は、防護服を着用した機動隊員ら 15 名が出動したが、遺体表面の放射線量が全身の除染が必要となる基準を超えていたために収容できなかった。半径 20 km 圏内での遺体捜索活動は捜索を中断している。

3月28日(月)

1) いわき市・平キリスト福音教会(グローバル・ミッション・センター)に森章師を訪問。2年前、類焼で会堂を焼失したために中心部のパチンコ屋さんを買い取る。改装のための資金を借りられずにいたところ、今回のことが起こり、当初から地元の救援活動に意欲的に取り組んでこられた。現在は1階が全国から送られてくる物資集積・配送の拠点となり、全国、世界中から祈りとボランティアが集められており、来訪を大変喜んでくださった。皆と祈りを共にした。

五十嵐兄 Ikapi「新しい街づくり」のビジョンで合致。
イスラエル Ariel さんともお会いできた。

「相手の方のニードを満たすために活動するのであって、伝道したいという自分のニードを満たすために活動するのではない」ということをボランティアの皆はくれぐれも注意して欲しいと語っておられた。

いわき市の災害対策本部と親しい関係を保ちながら活動を進めている。

外国人大歓迎。笑顔と握手で接して欲しい。

詳細が分かってから動いては動けない。

いわき市では154か所の避難所に3750人が収容されている。

ある体育館には1000体の遺体が収容されている。

これまで一般向けに10万食を提供してきた。

「足湯ミニトリー」避難所の夕食前に
ガソリン30リットルと支援物資をいただく。

FHCanada 沼田深雪さん合流。

2) 同盟・勿来キリスト福音教会に住吉英治師を訪問。GMCでいただいた物資を届ける。近隣の方々がたくさん物資をもらいにロコミで来ておられた。湯本キリスト福音教会のこの4月から赴任なさる山下?師にお会いした。

届いた物資を地域の出来るだけ多くの人々の益のために使いたいと頑張っておられた。

トラクト「人生の基盤」を2000部欲しいとのこと。

3月24日朝、須賀川市の農家の男性(64)が自宅敷地内で首をつって自殺。農薬をできるだけ使わずに栽培したキャベツ約7500株は出荷直前であった。政府がキャベツなど福島県産野菜の一部について出荷・摂取制限を指示した翌日、

「これで福島県の農作物は売れなくなる。地震だけなら死ぬことはなかった…原発のせいで殺された。」と憤っていた。次男は「これから先の農業に希望が見えなくなったのだろう。もう父のような犠牲者は出さないで欲しい」と訴えた。

鋼材輸出にも風評被害。(日本鉄鋼連盟の林田英治会長)

3月29日(火)

GMCに立ち寄り、相馬市、南相馬市に届けるための食料などの支援物資と追加のガソリン20リットルをいただいて、郡山経由で相馬市へ向かう。

1) 相馬市・同盟・相馬キリスト福音教会に後藤一子師を訪問。お預かりした物資を届ける。一緒に祈った後、南相馬市へ

2) 南相馬市・日基・鹿島栄光教会(原発35キロ圏)佐々木茂師ご夫妻を訪問。頑張っておられた。残りの物資を差し上げる。

これまで奄美大島での室戸台風、酒田の大火など行く先々で災害に出会ってこられた。昨年移転してこられたばかり。障害を抱えた息子さんと共にここでがんばると言っておられた。

3) 南相馬市・単立・原町聖書教会(20キロ圏)に石黒實師ご夫妻を訪問。南相馬市の相談員をしてこられた。支援物資を届ける。その後、郡山市へ。

柳沢スタッフが合流

福島県内の大学で新年度入学予定者のうち少なくとも9人は入学を辞退。いずれの大学も30Km圏外にあるが、事故処理が長引けば辞退者はさらに広がるのではないかと心配している。いわき市の「いわき明星大学」では事故発生後に4人が入学を辞退した。(毎時0.73マイクロシーベルト)県立医大医学部では110人のうち11人が原発事故を理由に入学を辞退。

3月30日(水)

英部プロポーザルの再検討

- 1) 日本イエス郡山共同キリストに福井文彦師を訪問。会堂は少々ひび割れ。福島県立医大の医者も避難して戻ってこない状況がある。今後、農業、会社の再建ができるかが課題

二本松の老舗の旅館が原発の影響で廃業した。
須賀川のキャンプ場をF V I の拠点として使用してもかまわない。

- 2) バプテスト連盟郡山コスモス通り教会に鈴木牧人師を訪問。屋根のかわらが落ちた。

郡山では避難所で物資を勝手に配れない、ボランティアも勝手には入れないなど、規制が厳しい状況話を話して下さった。

大手企業が社員に避難指示を出すなど、今後、行政も税収減により縮小を余儀なくされるであろう。

「仕事」の創出（たんに住居の必要だけではなく）が大切

- 3) 郡山キリスト福音教会に木田俊彦師を訪問。駐車場へ行く階段にひび。会堂に少々ひび。地元の方々が数名会堂に避難されていたが、現在は戻られた。

いわき市の「就職支援センター」で本宮の熊田和雄牧師が仕事を始めた。教会に来ないと心が落ち着かないということで、ガソリン不足の今も 49 名ほどは集会を休むことなく来ている。

- 4) インマヌエル郡山キリスト教会に久保泰昭師を訪問。
Rodney Starks の本に興味。

- 5) 日本基督教団郡山教会を視察。
昨日福島先生は引っ越しをされたとのこと。牧師館が住めない状況。

- 6) カナダのテレビ局からスカイプによるインタビューを受けた。

Can you describe what you're seeing there on the ground? What are the greatest areas of need right now? については沼田姉が答えた。

What kind of assistance is **the church able to bring to the people?** について神田が答えた。

これまでは、緊急救援物資。しかし、この必要は満たされつつある。これから必要となるものは揺るがされないモノ・・・

- 信仰・・・信じてきたものが揺るがされた・・・揺るがされることのないお方への信仰
- 希望・・・多くの人々が家や財産など全てを失った・・・永遠に失うことのないモノ
- 愛・・・放射能汚染への恐れからの解放、南相馬市 70,000 人（今は一万人）、いわき市 340,000（今は半数）・・・全き愛は恐れを取り除く “perfect love cast out fear” :

Do you feel this is **an important time** for the church to rise up and make an impact?

千年に一度の大地震。千年に一度の神が働かれ霊的なインパクトを与えるチャンス。日本人の伝統的な世界観が揺るがされている。世界が祈ってくれている。神が働く時。

- What can we in North America specifically pray for?

日本社会と共に経済的に豊かになってきた教会・・・牧師が神の前にへりくだって謙遜に悔い改め、主の声を聴いて、主にのみ、従えるように。復興ではなく、イエスの教えを基礎に置く新たな街づくり・・・神の国の実現。

3月31日（木）

米国ラジオ局のために、90秒くらいのいくつかの話を準備するように言われ準備。

- 1000年に一度の危機・・・好機
- 価値観・世界観の問い直されている時～ローンを借りて新築・・・津波、どうしよう？
- 恐れ・・・誰が解放してくれる？
- こんな大変な時に訪ねて来てくれた・・・忘れられていない
- 新しい街づくり・・・南相馬市、いわき市 お互いを愛し合う街

- 1) 福島市笹谷教会に原師ご夫妻を訪問。ここは地震の被害は殆どなかった。ただし放射能値は郡山より高い。農産物の風評などが心配とのこと。福島県産の野菜を皆で買い求めた。

第一次訪問を終え、東京へ戻る。